

世の中は人と人との支え合い

「この世の中には、いろいろな人がいて、お互いが支え合って回っている。それを、年齢を重ねるにつれて、より一層強く感じるようになってきました」。NHK(日本放送協会)横浜放送局のトップ、小川純子局長。川崎生まれ。公共放送の看板を掲げ、重圧はさぞかしと端からは見えるものの、それを自然体、しなやかに受け止める。今春着任早々、神奈川県共同募金会の評議員と配分委員に就任。福祉も、やはり支え合いが大切、うまく回っていきけるよう、お手伝いができれば、と控えめながら抱負は頼もしい。横浜放送局はことし開局90年を迎え、期待される役割は増すばかりの中、多忙な日程の合間を縫って、お話を伺った。(敬称略)



顔を合わせて名刺を交わした人に、早速、NHK横浜放送局が制作した番組、それに、神奈川県に関する話題が盛り込まれている番組を、前もって放映日と放映時刻、その魅力をわかりやすくまとめてメールで発信。“巨大戦艦”NHKに安住することなく、発信力をさらに高めるために奮闘中

開局90年を迎えた NHK横浜放送局局長・小川純子さん

共同募金会の配分委員会、7月に開かれた今年度初めての会合に早速、出席していただきました。配分委員会の設置は社会福祉法に定められていて、寄せられた募金を、支援を必要とする県内の福祉活動を進める施設・団体へ公平、公正にお届けする大事な役割を担っています。初会合は、どんな印象でしたか。

護施設をはじめ高齢者、障がい者の施設など多方面に渡っていて、こんなにたくさんあるのかと。支え合いがいかに重要か、ふだんの生活の中で、とすれば見過ごされがちな活動が、たしかに存在し、社会に役立っている。それがよく分かりました。

募金活動の大切さがより身近に

例年、12月の1カ月間は、共同募金に加えて「NHK歳末募金」で支援していただいています。横浜放送局(横浜市中区山下町)の出入り口に設けた受付窓口などに、昨年度は約2700件、3517万円余もの寄付がありました。寄付金は共同募金会がお預かりして、福祉施設・団

体へ配分する資金として活用させていただいております。貴重な浄財で、ご協力に感謝しあげます。

小川 募金の大切さはよく理解できますので、お役に立てるよう少しでも多く、思っています。

共同募金会に昨年度、寄せられた募金は合計11億4567万余円。県内の約1700の福祉施設・団体へ届けられ、役立てられています。

ディレクターやチーフ・プロデューサーのご経験が長いようですね。

小川 香川県の高松放送局や、東京の報道局、衛星ハイビジョン局などを経験し、昨年は報道局の報道番組センター社会番組部エグゼクティブ・プロデューサーを務めました。現場では、募金の関係する番組制作も何度か経験しているんですよ。

それは、ご縁がありますね。どんな取材でしたか。

小川 パラリンピックに出場する車いすマラソンの選手を取材させていただきました。専用の競技用車いすは、使いやすいように選手個人に合わせて仕上げる必要があります。費用が結構かかり、選手個人で全部を賄うのはきついです。取材した選手は寄付を受け、心置きなく練習に励んで世界大会へ出場できました。寄付者の気持ちが生かされている、と感じました。

共同募金に寄付していただいた浄財は、そのうち約7割が、寄付者のお住まいの地元の福祉活動に役立てられています。この数字をお伝えすると、大半の人がびっくりされます。そんなに地元の役に立っているのかと。残りの約3割が、市区町村を越えた広域の活動や大規模災害時に備えて活用されています。東日本大震災や熊本地震などでも支援しています。



NHK横浜放送局



10月1日の「赤い羽根共同募金」開始の当日、NHK横浜放送局が募金の様子をカメラ取材＝J横濱駅西口(2014年)

小川 高齢化が進んでゆくと、いずれ親が、あるいは自分が介護施設でケアされるようになるかもしれない。自分が20代のころにはあまり考えてこなかった状況が、現実のものになるかもしれない。身内や知人の中に、そう考える人は増えてきています。その意味で、共同募金が、より身近に感じられます。

NHKのお仕事の中で、課題はありますか。

小川 いま、ネット時代を迎え、視聴者の意識、動向が変わりつつあります。多くの人が携帯、スマホに日常的に慣れ親しんでいます。その中で、従来のテレビのような30分〜50分の番組を最後まで見続けていただくのが、だんだん難しくなってきたのでは、と感じています。

番組では、よく録画済みのVTRを使いますが、その合間、合間にタレントで司会も連者なタモリさんのようなナビゲーターを登場させたりして、番組の構成に変化を持たせるような工夫をしています。

神奈川の史実を新たな視点で紹介できれば

神奈川に来て関心を持ったことはありますか？

小川 横浜をはじめ、神奈川県歴史です。たとえば幕末維新の時代。あらためて見直すと神奈川には面白く、興味が尽きない歴史がたくさんあることに気がきました。例えば、ペリーが浦賀に来航したとき、実際に交渉にあたった人は、どのように対応したのか、どう感じたのか。想像するとワクワクします。自分がディレクターだったら、そんな番組を作ってみたいなあと感じました。

なるほど。

小川 先日、80歳になる私の母と一緒に横浜の外人墓地を訪ねました。全国に先駆けて誕生した「発祥の地」が県内に数多くありますが、墓地には、それに携わった

いろいろな工夫が求められているんですね。

小川 ほかにあります。テクノロジが進んで、インターネット通販が盛んに利用されていますね。たとえばその中の大手のように、利用者が検索すると、希望する商品のほかにも類似のお奨め品が併せて紹介され購買意欲を刺激する。上手な商法ですね。今やそれが日常、当たり前前の社会になっている。そういう状況の中で、テレビやラジオから「この情報をもらってよかったな」と思ってもらえる、そういう仕組み、工夫が、より求められるのだと感じています。

神奈川にずっと住んでいても、詳しくは知らない史実はたくさんありますからね。

小川 横浜は開港前、戸数が100戸に満たない寒村だったようですが、そこに新しい海外の文化が入ってきた。その、ワクワク感、高揚感。そうした側面を今の時代から光を当てて振り返ってみることも楽しいなと感じています。

聞き手 神奈川県共同募金会・八木 明